

高橋都彦狛江市長と面談しました。

市民センターを考える市民の会は、すでに「市民提案書」および「市民提案書ダイジェスト版」を狛江市に提出しています。今回、高橋都彦市長と面談し、提案内容についてのご意見と市民センター改修の今後についてうかがいました。

高橋都彦狛江市長との面談記録

日 時： 2016年8月8日（月）10：00～10：30

場 所： 狛江市役所 市長応接室

出席者： 狛江市： 高橋都彦 市長

高橋良典 企画財政部長

市民センターを考える市民の会：

小尾将彦、木村博則、立川節子、馬場信義、藤村忠彦、堀 恒一郎

内 容： (以上6名／50音順)

● 高橋市長の発言要旨

・「市民提案書」および「ダイジェスト版」は読ませていただいた。現状の面積の2倍が必要となるなど、提案内容について真摯に受け止めている。しかし例えば、市民センターを改築する場合、閉鎖期間中をどうするかも考える必要がある。いろいろなケースに関し検討しなければならないと考えている。

・今後のスケジュールに関して

- ① 次期定例市議会にて補正予算を組み、調査を依頼する。
- ② 一般市民の声も聞く必要があると考えている。アンケート方式などで市民の声を聞くこととするが、新しく市民になった方の意見も反映できるようにしたい。
- ③ その後アンケート結果等をもとに具体的な方針を立てる。
- ④ 市と「市民の会」と一般市民の間で施設の使い勝手や利用方法等の「意見交換会（例：ワークショップ等）」を開催したい。

・図書館に関して

- ① 狛江には毎月100名近い人が転入している。比較的若い人が多いのが現状。転入した市民から「市長への手紙」に図書館がお粗末すぎると寄せられた。私（市長）もこれまで各地の図書館を利用してきたが、改善の必要性を感じている。
- ② 地域センターの図書室も含めて更なる改善を考える必要があると思う。

● 「市民の会」からの発言要旨と市長の回答

・他市の状況を見ても、コミュニティ・スペースが設けられ利用されている。市民センターを広く市民に活用してもらうためにはコミュニティ・スペースがぜひ必要である。市長からも「多くの市民が来て楽しい場所、役に立つ場所、来やすい場所にすべきと思う」との発言があった。

・また現在、市民の会では新しい建材や建築方法について学習しているが、その中で木材を使った増築についても情報を収集しており、国からの補助金制度もあるので、調査の対象に考えてもらいたいと要望したところ、市長から「様々な可能性について考慮したい」との回答をもらった。

・さらに、「今後も必要に応じて対話や打ち合わせ等を継続して欲しい」と要望したところ、市長からは、「こうした面談など、遠慮せず秘書広報室に申し入れてほしい。」との返答があった。